



勉強が面白くなる秘訣

今、子育てをしている、お父さん、お母さんが子どものことで気になっていることはどんなことでしょうか？

「いろいろ気になることがある。中でも一番気になっていることは、『勉強のことだ』』と言われる方は多いのではないのでしょうか。

生きていく上で勉強より大切なことがあるということは誰でも分かっています。でも、子どもが勉強ができる（学力が身につく）かどうかは、親にとって、とても気になることでしょう。学力を身につけることは自己実現をするために大切なことです。子どもが将来、自己実現ができるよう、学力をつけてやることは親としての責任の一つです。そのために、塾に行かせたり、家庭教師をつけたりして、学力をつけるようにしておられる家庭もあることでしょう。しかし、それ以上に、子どもが自ら興味を持って自主的・自発的に勉強するようになることが大切です。そうすれば自ずと学力はつきます。一人で勉強をして、着実に学力をつけている子どもはたくさんいます。



ここでは、子どもが自力で学力をつけることができるようになるためにはどうしたらよいのか考えてみましょう。

1 1教科でもいい、その教科を好きになること

「好きこそものの上手なれ」という言葉があります。好きになることで、モチベーションが上がり、やる気が湧いてくるものです。得意なもの、好きなものが何もないという子どもはいません。そこで、1つの教科を好きになることから始めましょう。好きな教科、得意な教科を1つ作ることで自信になり、他の教科へのよい影響が出てくるものです。

2 授業中、大切なことは覚えて帰ること（授業時間を大切にすること）

授業中、板書されたものをノートにきちんと整理することは大切です。その上、重要だと思われるような事項については、その時間内に覚えるようにしたらどうでしょうか。覚えようとする事により、自ずと授業に集中するようになります。家に帰ってからは、授業中覚えたことを確認するだけでよいのです。小学生は少し難しいことかも知れませんが、中学生になったら十分できることです。

3 質問をすること

先生は、授業では多くの子どもがいるのでどうしても一人の子どもに焦点を当てた授業展開はできません。でも、質問をすれば、子どもにあった指導をしてもらえます。質問をするということによりよく分かるようになるし、先生とのよいつながりができ、一挙両得が期待できます。

4 決まった時間には勉強をするという習慣をつけること

“午後8時から10時までの2時間は必ず机に向かい勉強をする（学習時間は、子どもによって違う）”というように、毎日決まった時間には机に向かい勉強をする習慣をつけることです。特別な日をできるだけ作らないことが大切です。

子どもが、受け身の勉強から自ら進んでする勉強に変えさせましょう。そうすればお母さんが「勉強をしなさい」ということも言わなくて済むようになりますよ。

（文責＝青少年育成センター 藤村）